



3 区 | 伊丹沢 行政区

地理



県道 12 号線沿いに進んで草野の交差点で曲がり、南に下るとすぐにたどり着くのが、伊丹沢行政区である。草野と飯樋の中間地点にあたる。伊丹沢行政区は、沢という名前が付く通り、標高が低くなった谷状の地形を有していた。

文化・生活

伊丹沢行政区は、昭和 60 年から進められた「センター地区構想」で、役場や中学校、診療所等がこの区に集約されることになり、村役場付近に住宅地が形成された。そのため、飯舘村の中では珍しく、震災前まで人口が増加していた。それ以前は、現在、役場となっているあたりは放牧地であり、行政区にはその位置と地理からゴミ集積場が所在していた。

行政区内の寺社については、宮内行政区の綿津見神社の支社である山津見神社が、地元では姥石さまと呼ばれ、祀られている。

産業については、役場がある地域ではあるものの、歴史的には農地であることから、農家の人も多かった。戦後すぐの時点では炭焼き、養蚕、牛の畜産が主要な産業であったが、



山田登 行政区長

農業短期大学校を出て、農協系の卸業者に入り、その8か月後、JA 飯舘村に移る。その後はJAにて役職定年まで勤める。JA ふくしま未来の子会社の合併準備を主導し、子会社 JA 福島みらいサービスの成立後は、子会社の役員を務めながら、伊丹沢行政区の副区長を務める。被災JAのそうま代表として東京電力の社長に直談判に行った経験を持つ。

行政区長の思い：

何もないというのがこの村の良いところ。『ない』という魅力が良いのだというのを発信していきたい。

加工用トマトとインゲンといった商品作物としての野菜を作るようになり、その後はほうれん草やきゅうりの生産、震災前には花卉の生産も行うようになった。葉タバコの生産も行っており、米、園芸、畜産、たばこが村の農業の4つの柱とされていた。

商店については、草野、飯樋、松塚が近いので、当時あったAコープ等にすぐ行くことができたため、伊丹沢には個人商店がなかった。

祭礼については、綿津見神社の例大祭に山車を作って出しており、かなり本格的に活動していた。7つの行政区で毎年当番を決め、宝財踊りを踊っていた。

震災後について、2024年10月現在は約40戸が帰村しており、帰村率は震災前の三分の一程度である。行政区の活動として、2021年からパークゴルフ大会が始まり、6～9月に毎月練習を行うなど精力的に活動を行っているほか、同じく2021年から花壇の整備活動もはじめ、1年に70本ずつハナモモを植えている。

コラム

【いいたて希望の里学園】

村役場の近くに位置するこの学校は、小中一貫の義務教育学校である。9年間にわたって飯舘村について主体的に学ぶ「いいたて学」など、特色あるカリキュラムを展開している。村内の小中学校を統合するかたちで2020年4月に開校。村内から通っている児童生徒は4割ほどで、残りの6割は、仮設の校舎があった川俣町や福島市など、村外から通っている。学園の敷地内には幼保連携型認定こども園もあり、村の子どもは0歳から15歳までの長い期間をこの場所で過ごすこともできる。

店 事業所

自動車整備工場や、個人経営の美容室などが営業していた。

通信機器を製造する会社の工場が2000年代初頭に移設してきたが、震災前にはなくなっていた。現在、その跡地はメモリアルホールとなっている。

村役場のすぐそばにビレッジハウスができた際に、その一室が「ほんの森いいたて」という公営の本屋として運営されており、震災が起こるまで営業していた。

村役場、村立いいたて希望の里学園、いいたてクリニック、いいたてスポーツ公園といった公共施設が立ち並ぶ街となっている。



▲ いいたて移住サポートセンター【3 どころ】



▲ 飯舘村立いいたて希望の里学園

人口

131 人

最新（2020 年）

1983 年 360 人

1998 年 471 人

2011 年 487 人

▼ 伊丹沢の村社である山津見神社の鳥居（左）および社殿（右）





▲ 飯舘村役場



▲ 飯舘復興三千本の桜